市長のつぶやき No.50

自分ごとにするまちづくり

行政が計画を立て、施設を整備すればまちは良くなる。そんな従来のまちづくりの常識が、劇的に変わっています。

茨城県境町、山形市、そして群馬県前橋市。これら地方創生の先進地を訪れた際、どの現場でも目と肌で感じたのは、行政主導の限界を打破し、民間や市民の力を爆発させて圧倒的なスピードで変革を成し遂げていく驚くべき現場の熱量でした。その熱源はどこにあるのか。それは、民間や市民社会の活力を結集し、自らの手で変革を成し遂げようとする、現場の人々の情熱そのものでした。

特に前橋市の民間が主導する街路整備やシャッター街をリノベーションした店舗展開など、市民が主役のまちづくりの最前線に触れたとき、私の中にあったある思いは、確信へと変わりました。それは、大きな転換期を迎えるこれからの時代、まちづくりを行政任せの「他人ごと」にしていては進まないということです。

匝瑳市が直面する人口減少や地域活性化という壁を乗り越えるためにも、市民の皆さん、企業、そして団体が、匝瑳の未来を「自分ごと」として捉え、主役となって小さな挑戦を柔軟に積み重ねていく。そうした挑戦を歓迎する土壌こそが、今まさに求められているのです。

優れた先進事例を徹底的に学び、良い部分を貪欲にまねる。そして、地域の風土やニーズに合わせてアレンジし、実効性の高い政策へと昇華させていく。この挑戦の歩みこそが、持続可能な未来を創る確かな足がかりになると確信しています。

得られた知見をこれからのまちづくりへ必ず還元し、皆さんと共に挑戦を続けてまいります。今後とも市政へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

匝瑳市長　宮内康幸

地域おこし協力隊通信 第20回

農業振興担当
安藤真紀子 隊員

匝瑳市物産展のお手伝い

10月11日、「匝瑳市物産展」が「江戸川区民まつり」に出展し、私も手伝いに駆け付けました。大勢の来場者で、用意した匝瑳市産の農産品などはお昼前に完売する盛況ぶり。この物産展は、匝瑳市と江戸川区の間の「再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定」の一環で行われ、こうした都市部との住民交流が双方の地域活性化につながると感じました。今月8日に開催される「そうさ農業まつり」では、今度は匝瑳市に地域の農が大集合。農業者と市民の交流が盛り上がることを期待しています。

賑わいを見せる物産展

観光振興担当
萬屋希実 隊員

匝瑳市での暮らしが始まりました！

9月から地域おこし協力隊として匝瑳市での活動が始まりました。まずは市内を知ることからと思い、植木まつりを訪れたり、地域の人のお話を伺ったりしながら、少しずつ匝瑳での生活に慣れてきました。台風の影響でイベントが中止になることや、海岸にクジラが打ち上げられるという驚きの出来事も。市役所の食堂で昼食をとることも日々の楽しみの一つです。これからも地域の皆さんとの出会いを大切にしながら、匝瑳の魅力を発見し、発信していきたいと思います。

委嘱式後に活動の抱負を語りました

文芸コーナー

作品募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289－2198　匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73・0080　FAX72・1114

短歌

八才時逝きし父との腕相撲
腕のぬくもり今も鮮やか　大木　洋一

ハクビシン喰い残したる落花生
ため息の数だけ拾い集める　鈴木　志子

ひさびさの秋晴れの庭に香り立ち
金木犀と朝を迎える　金沢　恵

白き花かすかにゆれし名を問えば
利久梅という旅先の庭　鈴木　和代

赤とんぼ空間座標の一点に
現われたりて秋は静まる　宇野とし子

長雨と洪水続く九月なり
大根の種は出番をまてり　木下　昌子

秋がゆく我が家の庭の虫たちも
ひと雨ごとに寂しさつのる　江波戸洋子

石田　健治　推薦

うちつける雨風強し恐い程
何事もなく過ぎよと念ず　伊橋　裕子

長雨の続く九月の過ぎゆきて
三十七日目の秋晴れ嬉し　伊橋　良子

木枯らしが秋の終りを告げにきた
木々はざわめき冬支度する　林　ツヤ子

俳句

雨幾日門の白萩散り初むる　那須　恒雄

秋空にまたがる蜘蛛の脚長し　椎名　晴江

枝豆の匂いの指で繰るスマホ　鵜沢　正信

グラタンを運ぶロボット秋に入る　佐々木之子

クジラ来る九十九里浜鰯雲　山崎智恵子

謎々のメール届きて秋に入る　川口　賢一

ひまわりがお日様恋しと俯いて　山崎　幸子

梨食べて夫との会話はづみけり　鈴木　志子

椿　和枝　推薦

稲刈るや羽根散乱に事件知る　伊藤伊之助

石田　健治　推薦

川柳

夕焼けにつないだ小指今夫婦　江波戸京子

夕焼けがつくる我が町風情ある　林　長三郎

夕焼けが教えてくれる明日天気　大木きみ子

深まる秋夕陽が落ちる秋澄みて　渡部すい子

八十五今だ主婦をやめられぬ　山崎　幸子

行く道は敷かれたレールだけでない　西小笹喜寿男

夕焼けと帰路のデートは明日の糧　安藤　幸恵

ハエたたき構えてみれば寄りつかず　熱田真こと

もう年じゃ言い訳しながら「甘」食し　須貝　玉泉

勝又　康之　推薦

石田　健治　推薦

匝瑳探訪　No.246

漂着伝承の仏

野手を歩く

市内には九十九里浜に漂着したとの伝承を持つ仏像があり、野手・円長寺の山門（仁王門）にまつられる仁王尊にも漂着伝承があります。

『野栄町史（付録・伝説と民話）』に「円長寺の仁王様」の話が載っています。

「むかしものすごい風と雨が何日も続き、困り果てた村人たちは神仏にお参りして、2、3日たつと風雨はぴたりとおさまった。海岸には流木やごみが打ち上げられ、その中に貝殻の付いた仁王様を見つけた。村人たちが担いで円長寺の門前を通ると突然重くなり、『仁王様は門前にまつられたいのだろう』と考え、付着していた貝殻を落とし、像を修理し新たに仁王門を作りまつった」とされます。

仁王門は、金剛力士像を左右にまつり、寺の中に悪いものが入り込まないように置かれた門のことです。

円長寺は806年に越後（新潟県）の人、長基法印が開き、1337年になって長貴上人が中興開基したと伝わります。

前掲書にも「浅間神社と長貴さま」という話があります。越後の寺で修行していた長貴上人は、なぜか野手の地に来て、村人たちが幸せに暮らせるようにと庵をつくり布教に努めたことで、近隣からも人々が野手に移り住むようになり、野手村発展の基礎を築いたとされます。

上人は晩年、土の中で即身仏になる荒行を始め、息が途絶えたのを知った村人たちは、藤の木で作った長貴愛用の杖を墓に立て弔ったといいます。やがて杖は藤の大木となり、これを「さかさ藤」と呼んで上人をしのんだといいます。長貴上人の墓は「上人塚」と呼ばれ、今泉地区にあります。

円長寺に伝わる伝説はこの地域の真言宗寺院開創、発展の歴史、特に1350年ごろに越後加茂（新潟県加茂市）との結び付きを示すもので、興味が尽きません。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

円長寺の仁王門

問秘書課広報広聴班☎73・0080